

## 若手研究者セミナー 発表題目・発表者紹介

11月10日 (木)

法政大学 市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー26階スカイホール

10:30-11:45 若手研究者セミナー (岡嶋隆佑・松井久・中原真祐子)

岡嶋隆佑(おかじま・りゅうすけ):時間差論法から見る純粹知覚理論

慶應義塾大学大学院文学研究科哲学専攻博士課程。日本学術振興会特別研究員 DC1。主要論文に、「ベルクソンにおける知覚の諸相」、『哲學』、三田哲学会、2015年;「ベルクソンにおける収縮概念について——デイントンおよび平井へのリプライ」、平井靖史・藤田尚志・安孫子信(編)『ベルクソン『物質と記憶』を解剖する——現代知覚理論・時間論・心の哲学との接続』、書肆心水、2016年、翻訳に、クェンタン・メイヤサー著「亡霊のジレンマ」、現代思想、2015年1月号;グレアム・ハーマン『四方対象』、人文書院(近刊)などがある。

松井 久(まつい・ひさし):生物学史における環境概念とベルクソン

兼任講師(法政大学)。博士(エピステモロジー、科学技術史)、パリ西大学・ナンテール・ラ・デファンス。論文:« L'individualité biologique chez Claude Bernard »(『フランス哲学・思想研究』第17号、日仏哲学会、2012年);« L'individualité biologique chez Bergson »( *Implications philosophiques, Bergson ou la science* (Ebook), 2013年);« Le polype et Buffon : le problème de l'individualité biologique », (『フランス哲学・思想研究』第19号、日仏哲学会、2014年)。翻訳:アンリ・ベルクソン、『創造的進化』(合田正人氏と共訳)、筑摩書房、2010年。

中原真祐子(なかはら・まゆこ)(日本語タイトル:街を歩くとはどういうことか——ベルクソンの記憶と行動の理論からみた自我と外界との関わりについて)

東京大学人文社会系研究科博士課程(倫理学)。ベルクソンの人間観に関心をもち、現在は、とりわけその記憶理論と、19世紀当時の脳神経科学をはじめとする諸科学との関わりに関心をもっている。過去の論文に、「現在と過去はどう結びつくのか——ベルクソン『物質と記憶』における「性格」概念について」(「倫理学紀要」、東京大学大学院人文社会系研究科倫理学研究室、第二十三輯、2016, pp.81-104)。

11月11日 (金)

明治大学 駿河台キャンパス アカデミーコモン2階会議室

10:00-11:15 若手研究者セミナー (小杉将誠・笠木文・佐藤愛)

小杉将誠(こすぎ・まさよし):純粹知覚と超越的二元性:「物質と記憶」と物質主義的弁証法の現象学的基盤

ロンドン大学ゴールドスミス校カルチュラルスタディーズセンター非常勤講師・博士課程在籍、琉球大学国際沖縄研究所補佐員。今年度ベルクソンの直感論とその二元主義に関する博士論文をロンドン大学に提出。内容はベルクソンの直感論をカント、ヘーゲルなどの直感論らとの相違点から新たな哲学的方法として再構築するものである。2013年、

英エジンバラ大学出版ジャーナル・ドゥルーズスタディーズ特別号「ドゥルーズと哲学的プラクティス」編集・序文著,  
*Deleuze Studies Journal*, Volume 7, Issue 2.

笠木 丈(かさぎ・じょう):「内的認識としての直観について:緊張の差異を手掛かりに」

フランス社会科学高等研究院博士課程在籍。主な論文として、「記憶から創造へ——ベルクソンにおける直観、動的図式、意識の諸平面」(『宗教哲学研究』、32号、宗教哲学会、2015年)、「表象と所有——ガブリエル・タルドにおけるモノドロジーの受容について」(『フランス哲学・思想研究』、20号、日仏哲学会 2015年)がある。

佐藤 愛(さとう・あい)「ウジェーヌ・ミンコフスキーにおけるベルクソンの共感概念」

筑波大学人文社会系特任研究員。ウジェーヌ・ミンコフスキーの思想についての研究を行っている。博士論文「ウジェーヌ・ミンコフスキー研究—分裂性と同調性」(2016年3月)。現在はフェミニスト現象学の視点から、身体の変容過程を追うことについても関心を持っている。論文「変容を保証する身体—摂食障害をめぐる言葉を検討しながら—」(『論叢現代語・現代文化』、第17号、2016年。)